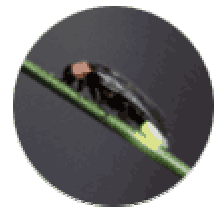


『ホタルについての話』



ホタル探見隊～ホタル特集～

かつては、日本中どこでも川面にホタルの乱舞する姿が見られました。しかし、経済の成長と共に自然がなおざりになり、気付いた時には環境が破壊され、自然が至る所で傷ついていました。その中であってホタルは、細々と生き続け、人々に郷愁をいだかせると共に心を癒し、和ませてくれていることにあらためて気付いたのではないのでしょうか。

「ホタル探見隊」結成について

2004年5月9日〔日〕「ホタル探見隊」が結成されました。これは瓦版でも紹介しましたが、ホタルについて「美作の自然と文化を守る会」、「津山まちづくり市民会議ホタル部会」によって長年生息調査が行われており、それをエコネットワーク津山が引き継ぎました。（とは言っても以前同様仁木さん中心にですが、今後エコネットワーク津山が長年の調査を無駄にしないように引き継いでいきますので、皆さんもご協力をお願いします。）

今年の調査結果について

「柵原ホタルを守る会」の他に、今までご協力いただいた方、新たに参加してくださった方々によって多くの調査結果がエコネットに寄せられています。ご協力ありがとうございました。この後まとめに入りますが、皆さんのお知恵を拝借してまとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

ホタルについて

ホタルの由来は「火垂る」から来ているといわれています。乱舞するホタルの光が夜空から星が垂れて見えることからその名がついたのでしょう。

※ ホタルの種類

世界では2000種、日本では46種が知られている。甲虫の一種だが、羽が退化したホタルもいる。ほとんどが陸生〔ヒメボタルなど〕でよく発光しないホタルが多い中、ゲンジボタルとヘイケボタルは幼虫期を水中で過ごし、卵、幼虫、さなぎ、成虫期と一生発光し続ける珍しい習性を持つ。ゲンジボタルは大型で南は鹿児島から北は青森まで生息する大変貴重な日本固有種です。また、同じゲンジボタルでも、西日本と東日本では発光の間隔が違うそうです。（西日本では2秒間隔、東日本では4秒間隔）

※ ゲンジボタルとヘイケボタルの名前の由来について

ゲンジ〔源氏〕ボタルの名の由来は、①山で修行する験師〔山伏〕たちが蛍の光に神秘的な力を感じて名づけたという説。②紫式部の「源氏物語」から名づけられたという説。の諸説がある。「ヘイケ（平家）ボタル」の名の由来も「ゲンジ〔源氏〕ボタル」に対して後から名づけられたという説が有力とのこと。形が大きいゲンジボタルに対し、ヘイケボタルは光も弱く、小型です。そんなところから、後の時代に源氏と平家が戦った争い「源平合戦」の負けたほうの平家をとってつけたのだろつとされています。

★ゲンジボタル

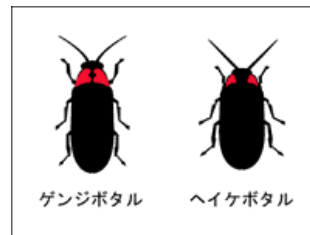
日本に普通見られるホタルの中で最も大きいホタル。雄は3cmぐらいまで成長。

背中黒、胸の背中側が赤く、ここに十字の黒い線が見られる。

成虫は5月初旬から6月中旬まで見られる。

雄は先端から二節目と、三節目が光る。光が強く、飛び回る。

雌は先端から二節目だけが光り、光は弱く、草の上にいることが多い。



★ヘイケボタル

全体的に丸く、ゲンジボタルに比べて少し小さく、背中黒、胸の背側が赤く、はっきりとした黒い線でゲンジボタルと区別することができる。

★ホタルの一生

- ① たまご 6月頃川岸のコケに0.5mm位のたまごを産卵



一匹の雌が500～1,000個産卵



- ② 幼虫



卵は一ヶ月で幼虫になり、水中に入って生活。水の中でカワニナを食べる。カワニナは春から秋にかけて稚貝を生むので、自分にあった大きさのものを食べる。3～4月頃6回目の脱皮をして2,5cm位の大きさになった幼虫は雨の降る夜岸に上がって軟らかい土の中に部屋を作ってもぐる。

- ③ さなぎ



川から陸に上がり、土にもぐって40日後さなぎになる。〔500m位移動をするものもあるという〕10日たつと殻を破って成虫が出てくる。

- ④ 成虫



土から出た成虫は川岸を飛び回る。月明かりのない暗い夜、気温が高く曇った風のない日によく見られる。また、川べりに柳や竹やぶのあるところでも多く見られる。

★ホタルはなぜ大事な昆虫といわれるか

単なる神秘的な光を放つだけでなく、ホタルは汚れた環境では生きられない虫なのです。ホタルによって環境を知ることができる、いわば環境のバロメーターなのです。ホタルが生きられる自然は人間の生活にとっても安心であり、いわば「警報装置」の役目もしてくれています。また、ホタルの光には、「1/f ゆらぎ」と言うそよ風や川のせせらぎ、潮騒などと同じように私達に対して精神的な安らぎを与えてくれるα波を刺激する変動波現象を持っているとされています。そのようなホタルを「佐渡のトキ」と同じ道をたどらないようにしなければなりません。